

倉敷市立市民病院の概要



～198床の地域密着型の中小規模自治体病院のあるべき姿、
愛される地域中核（基幹）病院であるために～

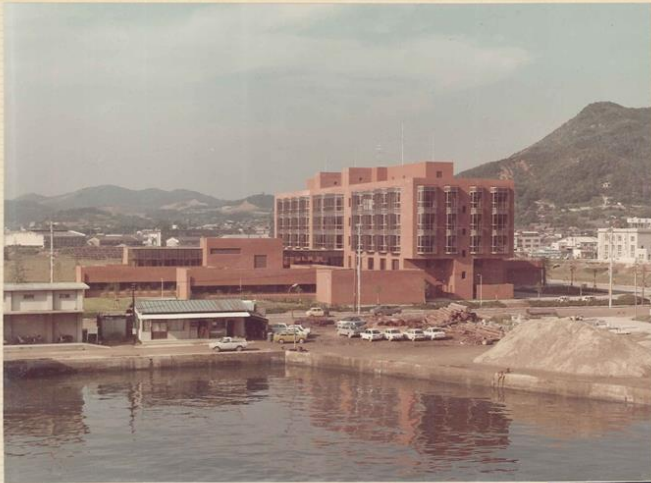


倉敷市立市民病院
事業管理者兼院長 江田良輔

昭和48年当時の「倉敷市立児島市民病院」設計者は最高裁判所、警視庁本部、東京大学附属病院などの設計で有名な岡田新一さん。岡山県立美術館も手がけた。



高所より正面側全景



附近全景



本館正面全景

児島市民病院は昭和25年に創立され、
昭和42年(1967年)に児島市は、倉敷市、玉島市と合併
昭和48年に現在地に「倉敷市立児島市民病院」として新築移転。
倉敷市立児島市民病院(病床数計198床:一般165床、療養型33床)は
44歳で幕を閉じた。

平成30年4月1日「倉敷市立市民病院」(198床)として新築開設した。

開設者 倉敷市長 伊東 香織

病院事業管理者兼病院長 江田 良輔

新病院 建築概要

2018年4月 オープン！

1 建物概要(新病院棟)

- 建築面積 : 約 3,600m²
- 延床面積 : 約14,000m²
- 建物高さ : 約26m
- 階数 : 地上6階
- 構造 : PC造(免震構造)

倉敷市の病院初



新病院: 昭和・三木設計
藤木工務店・藤原組・
ナイカイーキット

2 施設概要

- 病床数 : 一般病床198床
(HCU4床、感染症1床含む)
- 診療科: 23科 (新設; 歯科口腔外科)
- 想定外来者数: 約450人／日(外来は専門医療を中心)
- 駐車台数 : 約200台

2019年9月
駐車場、外構工事も完了
フルオープン



2020年より
コロナ禍突入



便利: 瀬戸大橋線マリンライナーで岡山-えひめ 22分

倉敷市立市民病院

倉敷市の最南端 四国からの本州玄関口

倉敷市の救急(車)医療

岡山県医療圏域

3次救急:救命救急センター

倉敷市

主な医療施設

救急医療に貢献
できる病院



「役に立つ病院」
その1



瀬戸大橋開通1998年

瀬戸大橋線
マリンライナーで
岡山-児島 22分
児島-坂出 15分
児島-高松 30分

倉敷市人口	483,767人
児島地区人口	63,109人

児島地区救急車 年間1000台程度は応需している。

倉敷中央病院
川崎医科大学病院

早期の退院を催促される



高度先進医療;岡山大学病院

高度急性期

救命救急センター



「役に立つ病院」その2

地域包括ケア推進のため、
医療部門の役割を
中心的に担う

①高度急性期から受け入れ

入院患者の重症度、看護必要度の設定 など

急性期

亜急性期の治療を継続！

倉敷市立市民病院

当院地域連携室内に
「児島医師会在宅医療支援センター」を設置

コントロールタワー
ハブ病院を目指す

地域包括ケア病棟

1-2ヶ月の入院治療期間
リハビリテーションなど

急性期病棟での治療
(1-4週間程度)

②在宅・生活復帰支援

在宅復帰率の設定 など

「地域完結型医療」へ

長期療養
介護等



介護施設等

③緊急時の受け入れ

・二次救急病院の指定
・在宅療養支援病院の届出 など



自宅・在宅医療

訪問看護
ステーション等と
しっかり連携

★地域で、生まれ、育ち、最期は、地元で、幸せに一生を終える！

国が進める病院の機能分類とは？ 「機能分化と連携」

○高度急性期医療（救命救急センター、高度専門医療、先端医療機関）

3次救急：倉敷中央病院、川崎医科大学病院など、高度先進医療：岡山大学病院など

他：岡山市立市民病院、岡山赤十字病院、NHO岡山医療センターなどと連携

◎急性期・亜急性期の医療；一般救急と亜急性期医療

- ・急性期（2次救急まで）
- ・ポストアキュート/回復期
（地域包括病棟/リハビリテーション）

+ 専門医療（旗がある）

～心かよう地域医療～

○慢性期の医療（他の医療機関）

入院：倉敷シティ病院、児島聖康病院、下津井病院、

と連携して、包括的に対応）

児島中央病院など

○介護・在宅、施設：生活の場：かかりつけ医（開業医）の活躍

★病院、施設の機能を明確にして、医療機関が密に連携して「病院完結型医療」から

「地域完結型医療」へ

市民病院はここを担う

倉敷市立市民病院の基本理念・方針

基本理念

- ・市民に信頼される地域の中核病院を目指す。
- ・人間味あふれる温かな医療を実践する病院を目指す。

基本方針

- ・市民が利用しやすくかつ患者中心の良質な医療を公平に提供するように努める。
- ・地域の中核病院として市民のニーズに応え、初期・二次救急医療、小児の夜間救急の充実に努める。
- ・採算性を求めることが困難である救急医療、周産期医療、小児医療を提供し、公立病院として地域医療の確保に努める。
- ・市民の健康保持と福祉の増進を図るため、予防医療の充実に努める。
- ・地域医療の向上のための病診連携を図り、病床の一部を開放病床とする。
- ・病院の健全経営に努め市民の信頼に応える。
- ・疾病構造の変化に対応し得る医療体制の整備に努める。

「安心の医療」

- ▶ 医療の透明性と説明責任が果たされていること、つまり、患者様はご自分がどんな検査をされ、いかなる治療を受けているのかが見えている 必要があります。その治療はどれほどの効果があり、他に方法がないのかの説明を受ける権利があります。医療は人の命を預かるという究極のサービス業ですから、その内容が不透明であれば行為自体が正当性を持ちません。医療スタッフは、患者様に行う医療行為を十分説明したうえで、納得していただくことが不可欠です。つまり、「インフォームドコンセント」が基本です。

「安全な医療」

- ▶ 医療の質が確保されていること、すべての診療科において、現代医学が求める医療水準を十分満たしていること、第三者が妥当と認める標準的な医療がなされているということが必要です。その上で各医師の得意分野、専門分野において、最新の知識と高水準の医療技術をもって、高度先進医療を行うことが病院のステータスを高めます。

「人間味あふれる温かな医療」

- ▶ 人間味あふれるとは、人に与えられた特権である感動を相手に与え、また、与えられるような生活を送ることではないでしょうか。患者様と医療スタッフが共感し合えるような温かな医療を行う病院を目指します。地域の皆様が健康で、病院スタッフも働きがいがあり、みんなが幸せであるようなアットホームな 病院でありたいと思っています。

以上の「安心」、「安全」、「温かな医療」をすべての職員が認識し、力を合わせて、継続性をもって実践すれば、周辺および地域の市民に信頼される中核病院になれると考えます。

倉敷市立市民病院の診療骨格

1. 倉敷南部地区の1次、2次救急に貢献できる病院

当該地区での救急車の応需を積極的に行い、出来るだけ収容できるように医療体制を整備する。ただし、心筋梗塞、脳卒中等は救命救急センター（倉中、川崎医大等）と密に連携をとり、患者本位のハブ機能を発揮する。高度先進医療は岡山大学病院と連携。岡山市立市民病院、岡山赤十字病院、NHO岡山医療センター等とも医療連携を進めている。

2. 当該地区で子供を産み、育てられる町にする 祝 分娩再開 平成28年12月～

年間200例程度を目標に、複数産婦人科医師、小児科医師の体制も整い、麻酔科医師も常勤体制となったので、正常分娩を主体に対応し、未熟児対応などの高度周産期医療は、倉中、成人病センター、岡山医療センター、岡山大学病院と連携することで、倉敷市街地の産科医療の負担軽減にも努める。小児医療（常勤3名以上体制）も維持充実させ、夜間の救急体制、休日診療にできるだけ対応できるよう、常にシステムの再構築を図る。

3. 緩和医療の充実、がん難民をつくらない

緩和ケア病床を確保し、チームによる専門医療を強化して倉敷市南部の旗印の一つとする。がん患者が安心して、最期まで幸せに納得しながら過ごせるように寄り添う医療を展開する。倉中、川崎医大、岡山大学病院等と連携する。また、他の疾患、慢性心不全、慢性呼吸不全などの終末期にも、BSC（最良支持療法）を主体に、支える医療を展開する。

4. これからは在宅医療の時代、地域包括ケアを推進、地域を統括する基幹施設として機能する

在宅診療支援機能を強化し、児島、倉敷医師会の診療所の医師（訪問診療）と密に連携し、地域包括ケアシステムを構築するために、地域の基幹医療施設（命のやり取りがある現場では、急変時の救急入院受け皿が必要）として機能する。倉敷市街地からの亜急性（慢性）期患者の受け入れについては、当院の連携室が児島医師会在宅医療支援センターの役割を担い、児島地域の他の医療・介護施設と相談、収容調整を行っている。当院の医師、看護師は、がん患者の在宅医療を積極的に支援する方針としている。

倉敷市立市民病院の診療骨格

5. リハビリテーションが得意な病院として発展する

運動器、脳血管に加え、呼吸器、嚥下機能リハビリを主体に、医療機器、人材、施設整備を行った。

倉敷市街地の救命救急センターからの転院をスムーズに受け取り、また、当院急性期医療からのリハビリテーションの流れを、地域包括ケア病床を活用して行う。



6. 疾患を予防、早期発見する医療サービスを重視する

健診センターを充実させて、がん、生活習慣病の早期発見に貢献する。一般外来とは区分して出入口を別に設け、健診センターへの利便性を高め、受診率の促進に努める。未病対策は、これからの医療の要であるから、常に戦略的に充実を図る。特に乳がんは、働き盛りのご婦人のがん罹患率トップであるから、乳がん健診の必要性を啓発する。当院には最新鋭のマンモグラフィー(3D)を導入しており、土・日の乳がん検診日も設定し、利用者の利便性を考慮している。



7. 災害に強い病院

倉敷市の病院で初の免震構造を採用した。当該地区の大規模な災害時は、当院以外に拠点病院はない。

機械棟、コンピューターは上階とし、放射線医療機器等に防水扉も設置した。大会議室、リハビリ棟は緊急避難、「診療場所としての機能」も有している。感染症のパンデミック時の旗振り役も倉敷市保健所と協働で行う。当該地区のBCP策定の中心的役割を担い、倉敷連合医師会、行政と連動して、いざという災害時には、必要十分な医療機能が果たせるよう日頃から、協議、確認作業を行う。

8. 倉敷市唯一の市民病院(公立病院)としてステータス、存在感を示す。

医師の専門分野医療により、頼りになる、選ばれる病院にする。医療は、「診療」、「臨床研究」、「教育研修」、「情報発信」の4本柱で運営していき、公立病院としての役割を熟慮しながら、市民病院ブランドを作り上げていく。

～市民病院がめざすもの～

- 「あってよかったー」と言ってもらえる、役に立つ基幹病院。

できるだけ多くの市民の皆様に喜んでもらえる医療サービスを提供。

- みんなが共同で支える地域医療、ウィンウィン関係。

ブルーオーシャン戦略で、レッドオーシャン市場で独り勝ちするのではなく、お互いの足りないところを補い合う医療サービスを提供。

- 経営的に生き残れる病院。

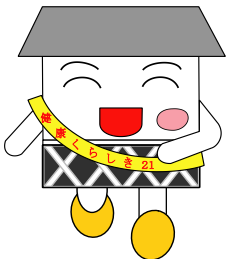
健全な経営基盤があってこそ、良質な医療を提供し続けられる。

- 厳しい環境でも「やさしさを忘れない」、「夢をあきらめない」病院

地域の皆様に病院がどんどんよくなるように育ててもらう。開かれた病院であること。



ご指導のほど
お願い申し上げます。



- ★ 新しい生命が誕生して、成長していける町づくり。
- ★ 1人暮らしになっても、幸せを感じながら暮らせる町づくり。
- ★ 健康管理に意識が高い町づくり。

公園

■ 外来，手術，
化学療法，中央材料，
厨房，薬剤，医局，
事務・管理他

- ・各自机にインターネット環境あり。
- ・学会参加費支給など一通りの福利厚生はあり、身分は「副医長」なので、倉敷市の正規職員としての年休、病休制度など身分保障は万全。

3名收容

圖書室

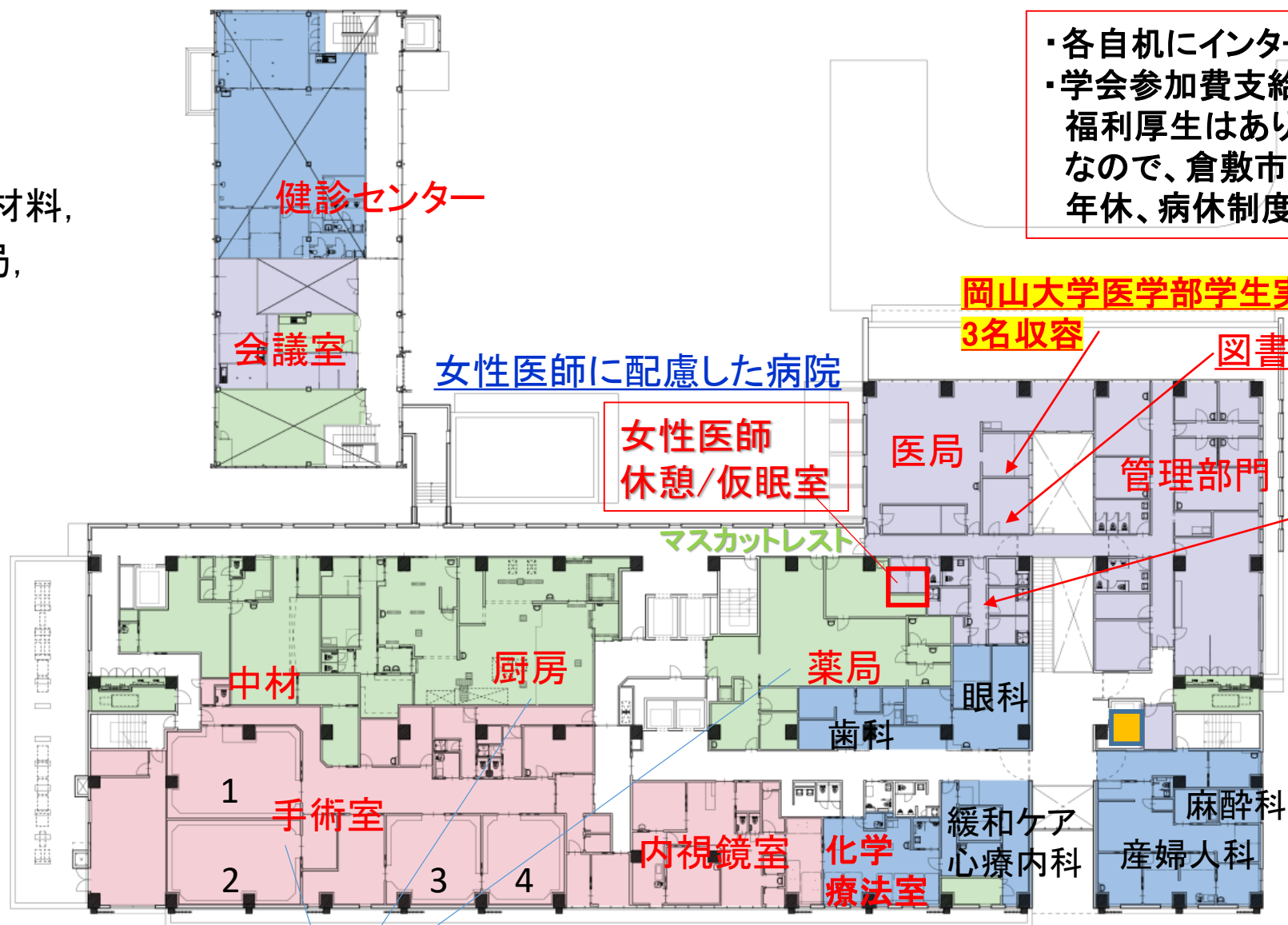
女性医師に配慮した病院

女性医師
休憩/仮眠室

マスカットレスト

当直室4部屋
各室シャワー付
当直環境の整備

水害・災害時に備え、2階に設置した



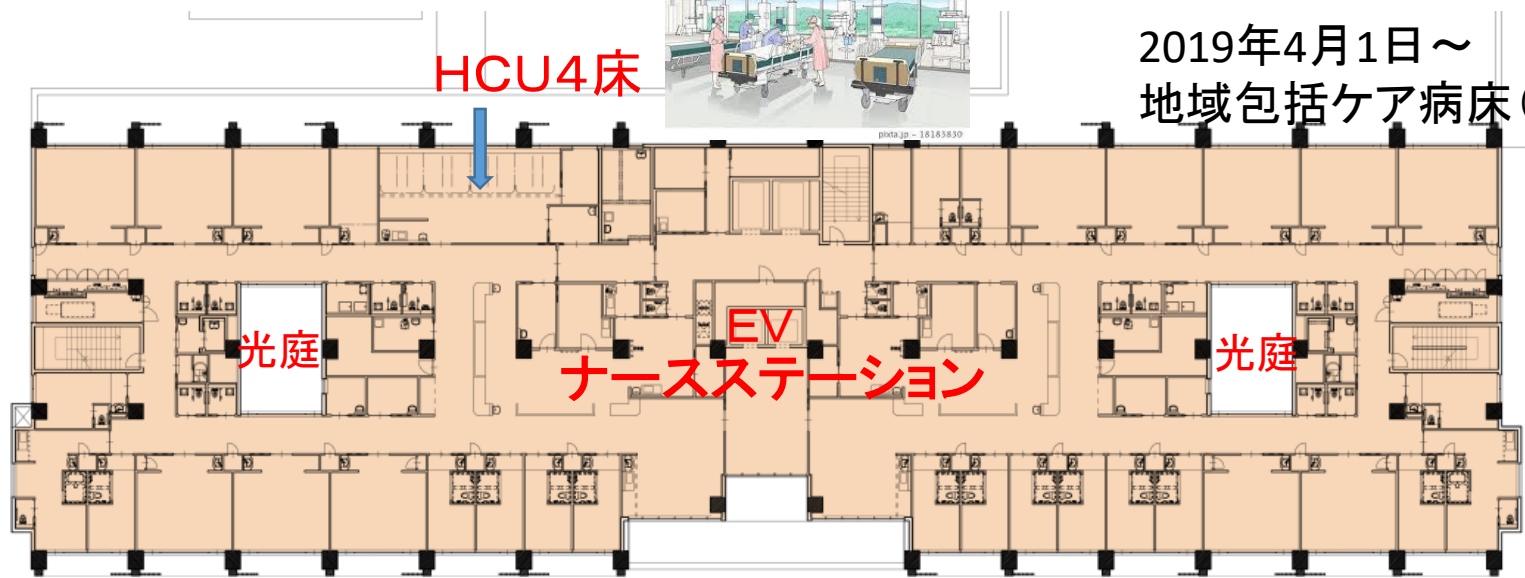


2019年4月1日～
地域包括ケア病床(病棟)へ変更

3F
■ 病棟

外科系
急性期

西病棟(36床)



整形外科
内科等
混合病棟

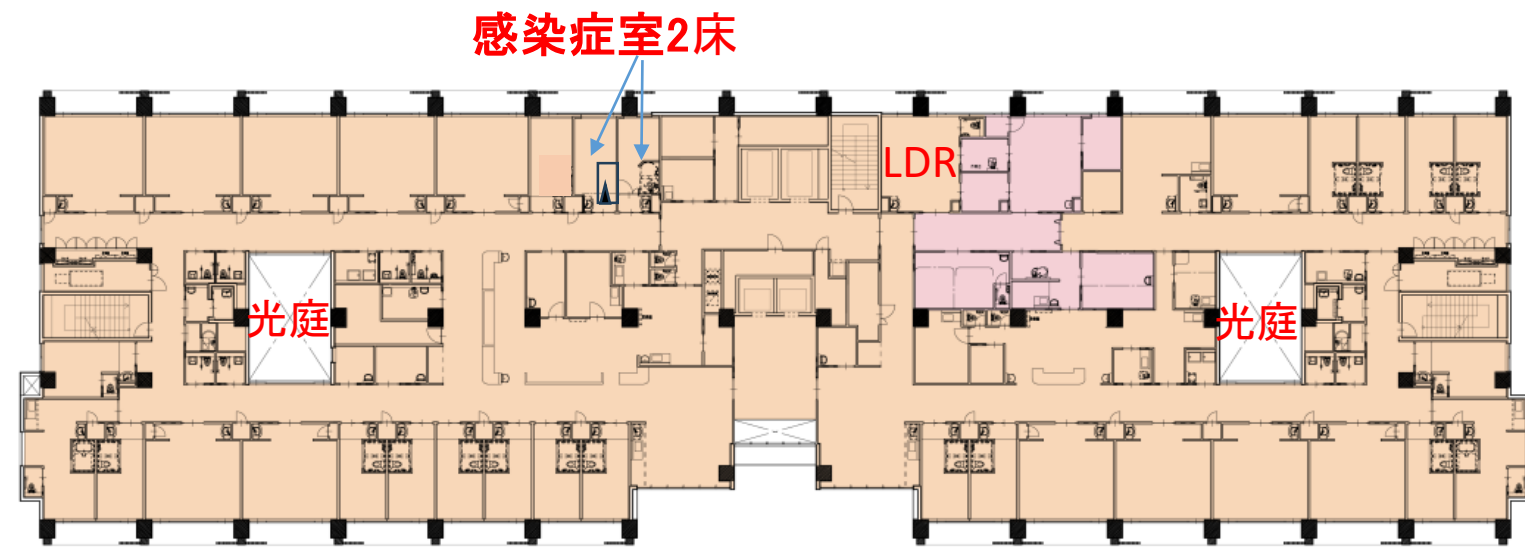
認知症認定看護師
在籍

東病棟(40床)

4F
■ 病棟

内科
急性期

西病棟(40床)



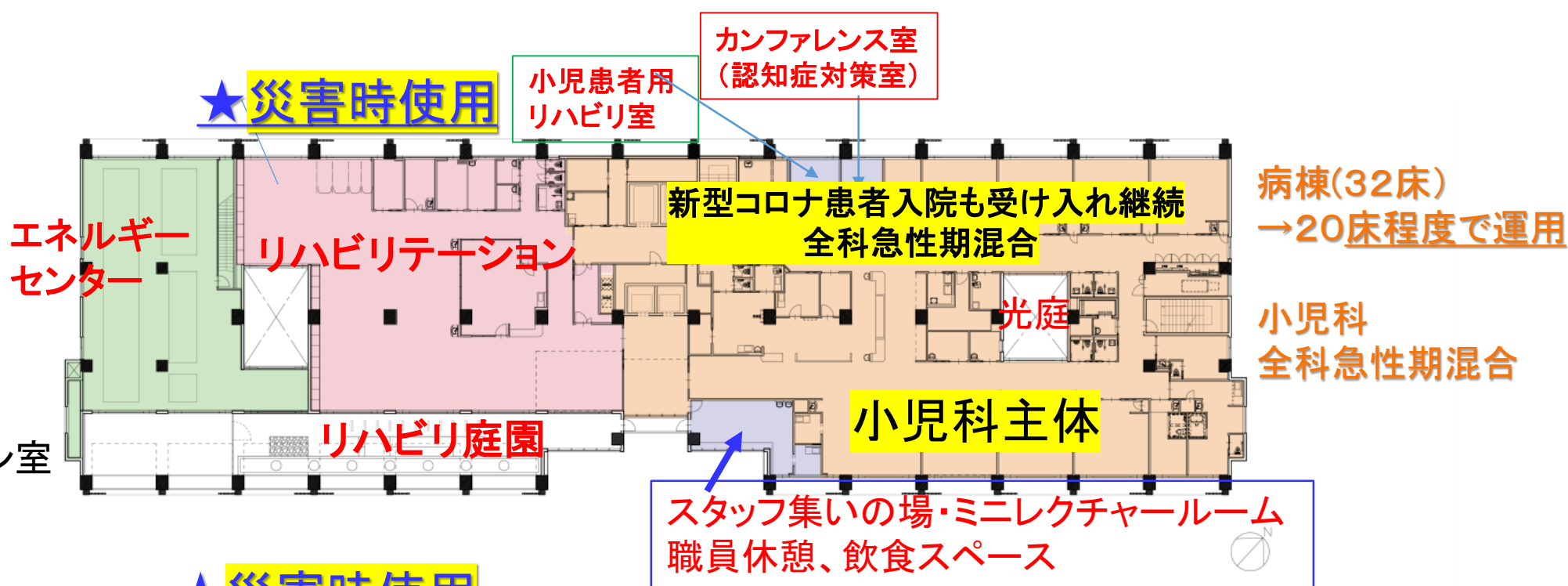
産科/婦人科

産科病棟として機能
母親学級/研修会
を含む

東病棟(30床)
レディース病棟(ピンク)
女性専用病棟

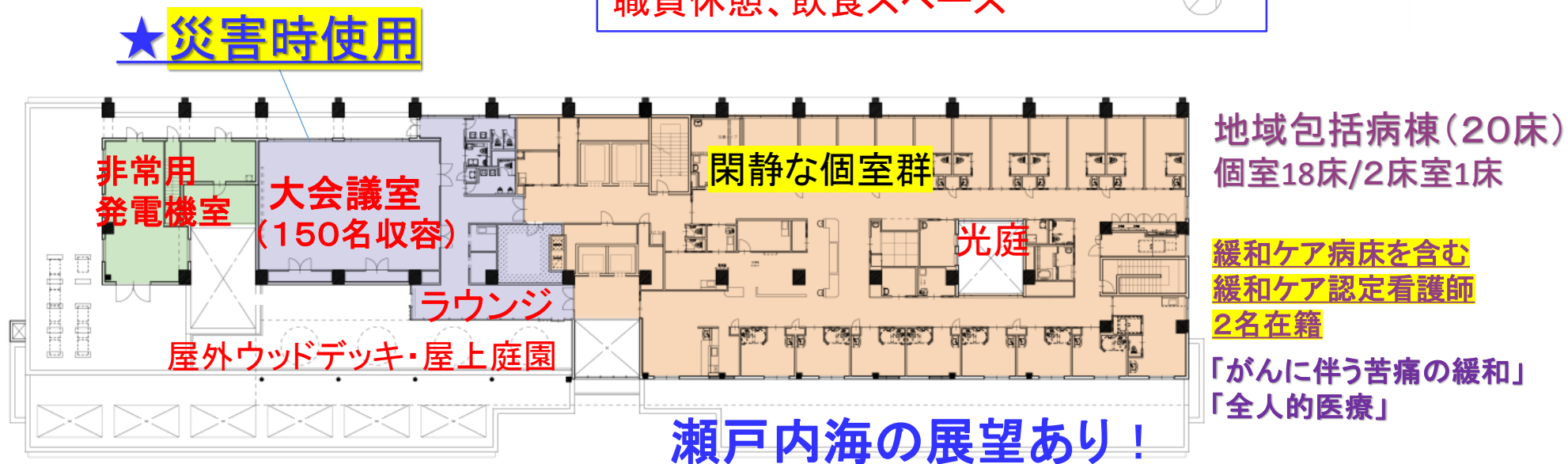
5F

■ 5東病棟
リハビリテーション室



6F

■ 6東病棟
大会議室



■ 屋上：設備機器置場，太陽光発電 設置



中央受付



一般病棟(小児科、整形、混合)



4人部屋

特別室





南側